

# 1. 銅の国際市況と需給動向（2007年9月まで）

企画調査部

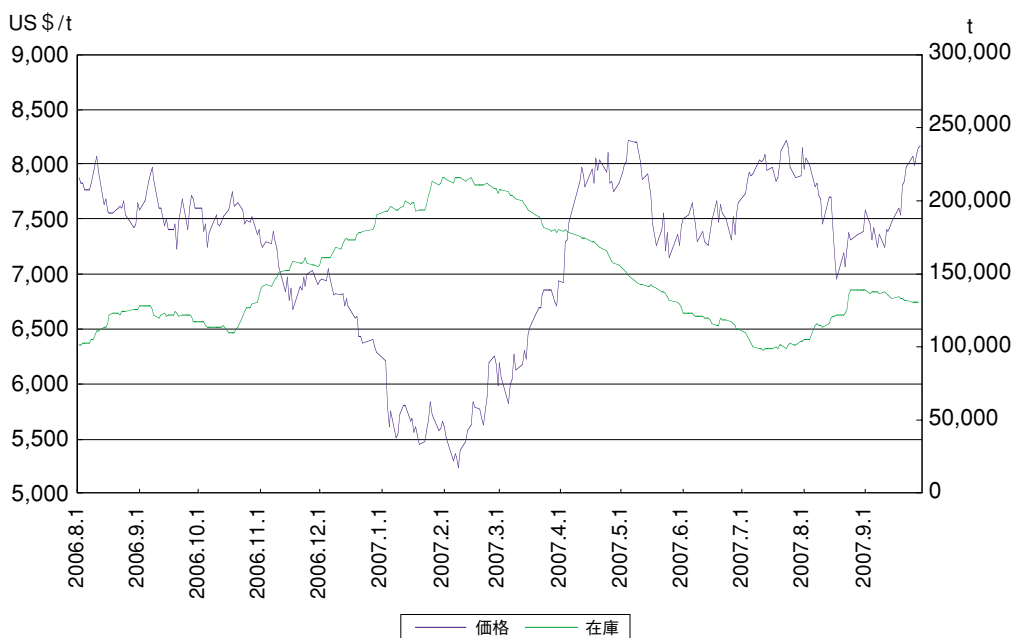
1. 8、9月の銅の国際価格は、供給不足が続いているため乱高下し8,000US\$/t台前後と高い水準。
2. 1～7月の銅地金消費は前年同期比7.5%増。一方、鉱山生産は同4.8%増、地金生産は同4.6%増。その結果、1～7月の需給バランスは、318千tの供給不足。
3. 国際銅研究会によると、2007年は110千tの供給超過となる見込み。

## 1. 国際価格（2007年8～9月）

8、9月のLME銅価格は供給不足の傾向が継続していることもあり、引き続き乱高下しつつ6,900US\$/t台から、8,100US\$/t台と比較的高い水準で推移した。

8月のLME銅価格は月前半は下落傾向、その後は回復傾向に転じた。8月1日に7,950US\$/tでスタートした後は8月2日に8月の最高値の8,055US\$/tに達した。その後、上下しつつも下落を続け8月17日に6,960US\$/tまで下落した。その後、上昇傾向に転じ、8月31日に7,580US\$/tで終了した。

9月のLME銅価格は上旬は乱高下し、中旬以降上昇傾向にあった。9月3日に7,451US\$/tでスタートした後は9月10日に一旦7,248US\$/tまで下落した。その後は上昇傾向に転じ、9月28日に9月の最高値の8,165US\$/tと高い水準で終了した（図1-1）。



銅	2006年			2007年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (月末) (千t)	131	155	183	212	208	178	157	129	115	102	139	131
平均価格(現物) (US\$/t)	7,500	7,029	6,675	5,670	5,676	6,452	7,766	7,682	7,476	7,974	7,509	7,649

図1-1 銅価格と銅在庫の推移

出典:LMEホームページ

## 2. 需給 (2007年1～7月)

- ① 1～7月の消費は、最大消費国の中国が37.6%と大幅増となったこと等により、世界計では前年同期比7.5%増の10,790千t。
- ② 1～7月の鉱山生産は前年同期比4.8%増の8,921千t。
- ③ 1～7月の地金生産は前年同期比4.6%増の10,472千t。
- ④ その結果、1～7月の需給バランスは318千tの供給不足。
- ⑤ LME在庫量は回復傾向にあり、7月末に102千t、8月末139千t、9月末に131千tと推移している。

### 〈需要〉

2007年1～7月の世界消費は前年同期比7.5%増の10,790千tであった。世界消費は4月1,602千t、5月1,548千t、6月1,553千t、7月1,496千tと推移している。国別では、2位米国が3%減、3位ドイツが2%減、4位日本が1.8%減、5位イタリアが3.5%減だったものの、最大消費国の中国が37.6%と大幅増となり全体として増加した。

### 〈供給〉

2007年1～7月の鉱山生産（金属純分、以下同様）は前年同期比4.8%増の8,921千tであった。鉱山生産は4月1,262千t、5月1,310千t、6月1,278千t、7月1,265千tと推移している。鉱山設備稼働率は4月87.5%、5月87.6%、6月88.1%、7月84%と推移している。国別では、2位米国が2.3%減であったが、最大生産国のチリが3.7%増、3位バレーが9.5%増、4位中国が5.3%増、5位インドネシアが29.6%と大幅増となり全体として増加した。

2007年1～7月の地金生産は前年同期比4.6%増の10,472千tであった。地金生産は4月1,500千t、5月1,538千t、6月1,496千t、7月1,512千tと推移している。精錬所設備稼働率は4月84.3%、5月83.2%、6月83.2%、7月81.1%と推移している。国別では、最大生産国の中国が10.6%増、2位チリが7.2%増、3位日本が3.6%増、4位米国が1.7%増、5位ロシアが4.8%増と世界的な増加傾向により全体として増加した。

### 〈需給バランス〉

2007年1～7月の銅需給バランスは318千tの供給不足であった。4月101千t、5月10千t、6月58千tと供給不足で推移していたが、7月に16千tの供給超過に転じた。季節調整後の需給バランスでは、4月に50千tの供給不足、5月に29千tの供給超過、6月に15千tの供給不足、7月に12千tの供給超過と推移している。

LME在庫は7月末に102千tまで減少したが、その後8月末139千t、9月末に131千tと回復基調で推移している（表1-1、1-2）。

表1-1 銅の需給状況

単位:千t、金属純分

銅	2006年												2006年計	2006年1～7月
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
鉱山生産量	1,197	1,089	1,226	1,198	1,257	1,237	1,243	1,212	1,184	1,341	1,351	1,408	15,008	8,513
地金生産量	1,433	1,328	1,448	1,423	1,452	1,444	1,454	1,438	1,445	1,488	1,471	1,521	17,331	10,015
一次地金生産量	1,249	1,162	1,256	1,232	1,253	1,245	1,245	1,230	1,242	1,275	1,269	1,298	14,865	8,528
二次地金生産量	184	166	192	191	199	199	209	208	202	213	202	223	2,466	1,487
消費量	1,420	1,306	1,439	1,439	1,492	1,438	1,439	1,357	1,470	1,423	1,460	1,335	16,994	10,041
需給バランス	13	22	8	-16	-40	6	15	81	-25	65	11	186	337	-26
銅	2007年								前年同期比(%)					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	1～7月						
鉱山生産量	1,276	1,162	1,352	1,262	1,310	1,278	1,265	8,921	4.8					
地金生産量	1,520	1,393	1,499	1,500	1,538	1,496	1,512	10,472	4.6					
一次地金生産量	1,311	1,201	1,284	1,284	1,311	1,274	1,304	8,961	5.1					
二次地金生産量	209	192	215	216	227	221	208	1,511	1.6					
消費量	1,529	1,466	1,594	1,602	1,548	1,553	1,496	10,790	7.5					
需給バランス	-9	-73	-95	-101	-10	-58	16	-318	—					

\*データは国際銅研究会のものを使用しているが合計等は必ずしも合わない。

出典：国際銅研究会資料

表1-2 LME国別銅在庫の推移

単位:千t

国名	2006年			2007年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ベルギー	0.000	0.000	0.000	3.725	1.675	0.925	0.675	0.675	0.675	0.675	0.675	0.675
フランス	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
ドイツ	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
イタリア	2.000	3.200	4.200	17.450	18.750	16.250	18.250	18.350	16.550	13.075	10.250	8.725
韓国	78.450	63.175	50.475	17.200	12.500	10.400	8.900	13.050	24.325	40.375	71.175	69.250
マレーシア	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.475
オランダ	3.975	5.975	18.275	58.250	55.375	53.250	44.400	27.750	19.875	5.550	6.525	7.200
シンガポール	53.425	47.875	32.200	15.625	10.400	6.325	6.700	6.625	6.975	10.600	15.150	10.725
スペイン	0.025	0.025	0.925	0.925	2.075	1.025	0.650	0.650	0.650	1.500	2.350	2.350
スウェーデン	0.000	0.000	3.350	2.350	2.500	2.500	2.375	2.250	1.150	1.050	0.150	0.000
UAE	0.150	0.150	0.150	0.150	0.150	0.150	0.150	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025
英国	1.650	1.500	5.400	6.150	7.475	5.650	4.100	2.925	2.375	2.250	2.250	2.075
米国	14.250	36.675	75.600	94.275	94.500	84.600	70.350	55.150	40.000	28.375	30.550	29.175
合計	135.175	156.725	190.575	216.100	205.400	181.075	156.550	127.450	112.600	103.475	139.100	130.675

出典:国際銅研究会資料

### 3. 今後の需給見通し (国際銅研究会予測)

#### 〈需要〉

2007年の世界の銅消費は前年比5.2%増(890千t増)の18,000千tとなる見通し。中国での伸びが目立つが、それとともにインド、ロシアの消費が継続的に伸びている。一方、米国、日本、欧州では減少する見込み。2008年の世界の銅消費は前年比3.8%増(690千t増)の18,700千tとなる見通し。

#### 〈供給〉

2007年の銅鉱山生産は前年比5.1%増(770千t増)の15,970千tとなる見通し。これは新規鉱山開発や生産能力の増加によるものである。2006年の生産量はチリ、インドネシア、メキシコでの生産障害により前年並みとなった。2008年の銅鉱山生産は前年比7.6%増(1,200千t増)の17,000千tとなる見通し。この増加は

新規鉱山開発、生産能力増加による。2007年、2008年ともにSX-EW生産は精鉱生産より伸び率が高くなる見込み。

2007年の銅地金(一次、二次含む)生産については前年比4.4%増(765千t増)の18,120千tとなる見通し。また、2008年の銅地金生産については前年比4.6%増(830千t増)の18,950千tとなる見通し。電解精錬生産は中国、インド、日本で増加し、SX-EW生産はチリ、アフリカ、米国で増加する見込みで、これらが世界の増加の大部分を占める。2006年、2007年に精鉱在庫が大いに消費されたこともあり、2008年の精鉱生産が地金生産の伸びを抑制すると予測される。

#### 〈需給バランス〉

需給バランスは、2006年に230千t、2007年に110千t、2008年に250千tと供給超過で推移する見通し。

## 2. 鉛の国際市況と需給動向（2007年9月まで）

企画調査部

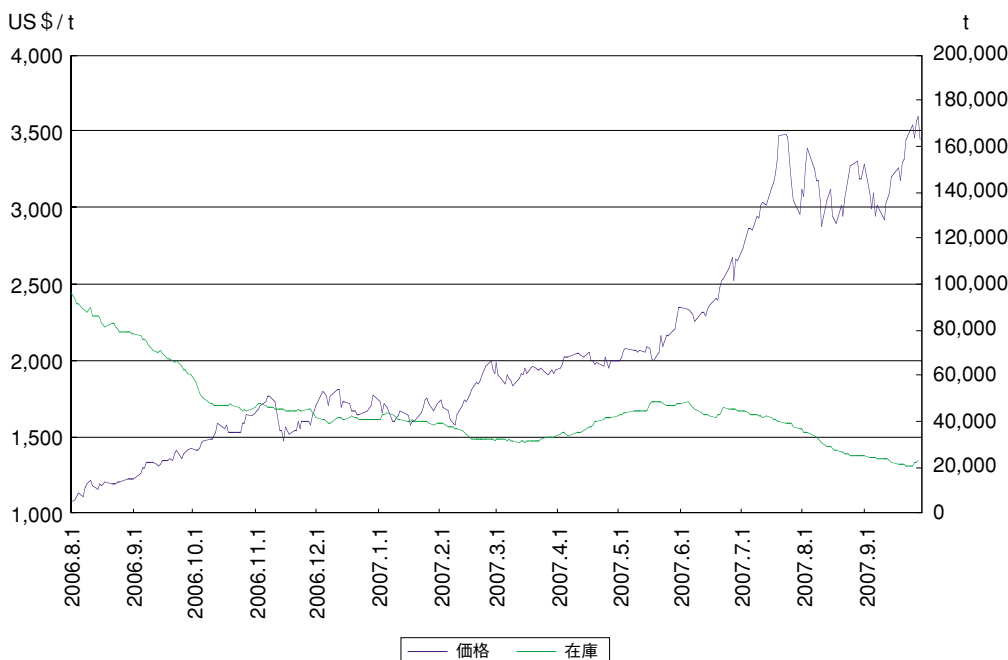
1. 2007年8～9月の国際価格は、需給不足なこともあり史上最高値を更新した。
2. 2007年1～7月の世界消費は前年同期比4%増。鉱山生産は、前年同期比2.3%増。地金生産は3.5%増であった。
3. 2007年1～7月の世界の需給バランスは、27千tの供給不足であった。

### 1. 国際価格（2007年8～9月）

鉛の国際価格は、8月に一旦2,800US\$/t台まで下落したが、再び上昇傾向に転じ、9月末には史上最高値の3,600US\$/tに達した。

LME 鉛価格は8月1日に3,075US\$/tでスタートした後、8月3日に一旦3,390US\$/tまで上昇した。その後、8月10日に2,873US\$/tまで下落した後は上昇傾向に転じ、8月28日に3,308US\$/tまで達し、8月31日に3,285US\$/tで終了した。

9月は9月3日に3,091US\$/tでスタートした後、9月10日に一旦2,915US\$/tまで下落した。その後は上昇し続け9月27日に史上最高値の3,600US\$/tに達した。その後、9月28日に3,451US\$/tで終了した（図2-1）。



鉛	2006年			2007年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (月末) (千t)	45	44	41	39	3	33	42	48	45	38	25	22
平均価格 (US\$/t)	1,531	1,625	1,726	1,666	1,780	1,915	2,001	2,101	2,426	3,084	3,117	3,227

図2-1 鉛価格と鉛在庫の推移

出典：LMEホームページ

## 2. 需給 (2007年1～7月)

- ① 世界消費は前年同期比で4%増。中国で22.9%増の相変わらずの顕著な伸びを記録し、世界第1位を維持。鉱山生産は、前年同期比で2.3%増。地金生産は3.5%増。
- ② 2007年1～7月の世界の需給バランスは、約27千tの供給不足であった。
- ③ LME 鉛在庫は、依然減少傾向にあり低い水準である。

## 〈需要〉

2007年1～7月の世界消費は前年同期比で4%増の4,828千tであった。2位米国が6.9%減となったが、最大消費国の中国が22.9%と大幅増、3位ドイツが8.6%増、4位韓国1%増、5位イタリア0.6%増により全体として増加した。

## 〈供給〉

2007年1～7月の鉱山生産は前年同期比2.3%増の2,058千tであった。2位豪州が9%減、3位米国が0.8%減、5位メキシコが11.3%減であったが、最大生産国の中国が11%増、4位ペルーが5.6%増等により全体として増加した。

2007年1～7月の地金生産は前年同期比3.5%増の4,801千tであった。4位日本が0.6%減、5位英国が12%減であったが、最大生産国の中国が7.4%増、2位米国が2.3%増、3位ドイツが2.2%増となり全体として増加した。

## 〈需給バランス〉

2007年1～7月の需給バランスは、米国備蓄放出を考慮しても27千tの供給不足となった。

LME在庫は7月末約38千t、8月末約25千t、9月末約22千tと減少傾向にあり依然低い水準である(表2-1、2-2)。

表2-1 鉛の需給状況

単位:千t

鉛	2006年												2006年	2006年
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1～7月
鉱山生産量	285	262	290	282	278	303	279	292	293	301	280	276	3,442	2,012
地金生産量	662	663	674	672	698	667	611	584	678	683	683	669	7,937	4,637
米国備蓄放出	5	2	3	4	2	1	0	0	0	0	0	0	17	0
消費量	639	644	643	668	681	660	664	614	686	704	680	651	7,953	4,642
需給バランス	28	20	35	8	19	9	-53	-30	-8	-20	3	18	1	-5
鉛	2007年								前年 同期比 (%)					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	1～7月計						
鉱山生産量	295	283	296	281	297	306	300	2,058	2.3					
地金生産量	680	658	669	704	712	688	685	4,801	3.5					
米国備蓄放出	0	0	0	0	0	0	0	0	—					
消費量	683	673	677	688	690	702	707	4,828	4.0					
需給バランス	-4	-16	-9	17	22	-14	-22	-27	—					

※データは国際鉛亜鉛研究会のものを使用しているが合計等は必ずしも合わない。

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

表2-2 LME国別鉛在庫の推移

単位:千t

国名	2006年					2007年						
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
スウェーデン	20.1	17.2	9.0	4.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0
シンガポール	53.8	38.8	32.5	34.4	34.1	28.4	17.4	15.2	20.1	24.2	21.2	11.8
米国	2.2	2.3	3.6	3.9	6.0	10.6	14.0	18.3	21.8	23.2	23.6	24.3
イタリア	2.1	1.6	0.8	0.6	0.6	0	0	0	0	0	0.1	0.2
オランダ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.2	0.6	0.2	0.2	0.8
合計	78.4	60.1	46.1	43.0	41.1	39.3	31.6	33.7	42.5	47.6	45.1	37.1

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

### 3. 今後の需給見通し（国際鉛亜鉛研究会予測）

#### 〈需要〉

世界の鉛地金消費は前年比で約4%増となり2007年に8,320千t、2008年に8,670千tと見込まれる。この伸びは主に中国での消費が自動車等に用いる鉛蓄電池の生産増加により2007年に前年比17%増、2008年に同10.2%増と見込まれるためである。米国では2007年は前年並み、2008年は2%増、欧州では2007年に0.6%減、2008年は1.6%増となる見込みである。

#### 〈供給〉

世界の鉛鉱山生産は2007年に前年比5.5%増の3,640千t、2008年に同10.4%増の4,020千tと見込まれる。この伸びは主に中国、サン・クリストバル鉱山の生産が許可されたボリビアによる。この他、マケドニア、ポルトガル、ロシア、スウェーデンなど欧州でも増産が見込まれる。

世界の鉛地金生産は2007年に前年比3.9%増の8,230千t、2008年に同5.4%増の8,670千tと見込まれる。この伸びはカナダ、中国、インド、カザフスタン、ポーランド、英国、米国の増産によるものである。

#### 〈需給バランス〉

2007年には89千tの供給不足となり、2008年には需給がほぼバランスする見込みである。

### 3. 亜鉛の国際市況と需給動向（2007年9月まで）

企画調査部

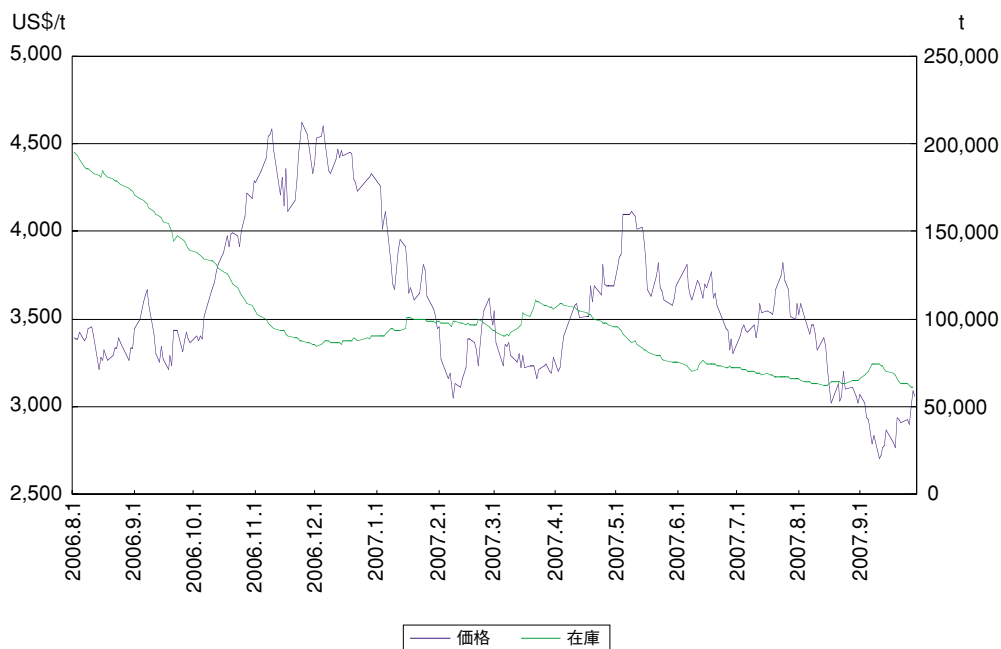
1. 2007年8、9月の亜鉛価格は、需給がタイトなこともあり2,700US\$台から3,500US\$台と依然高い水準で推移。
2. 2007年1～7月の世界消費は前年同期比3.1%増。鉱山生産は8.6%増、地金生産は8.3%増。
3. 2007年1～7月の世界の亜鉛需給バランスは、17千tの供給超過となった。

#### 1. 国際価格（2007年8～9月）

亜鉛の国際価格は、8月は下降傾向、9月は乱高下し、2,700US\$台から3,500US\$台で推移した。

8月のLME亜鉛価格は8月1日に3,525US\$/tでスタートしてからは、8月2日に一旦3,590US\$/tまで上昇した。その後は下落を続け、8月17日に3,021US\$/tまで下落した。その後は8月23日に3,200US\$/tまで回復し、8月31日に3,070US\$/tで終了した。

9月のLME亜鉛価格は9月3日に3,021US\$/tでスタートしてからは、9月10日に2,700US\$/tまで下落した。その後は上昇傾向に転じ9月27日に3,086US\$/tまで上昇した。その後、3,059US\$/tで終了した（図3-1）。



亜鉛	2006年			2007年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (月末) (千t)	108	86	88	98	94	106	96	76	73	66	65	61
平均価格 (US\$/t)	3,823	4,382	4,405	3,787	3,310	3,271	3,557	3,830	3,603	3,547	3,249	2,881

図3-1 亜鉛価格と在庫の推移

出典:LMEホームページ

## 2. 需給 (2007年1～7月)

- ① 2007年1～7月の消費は前年同期比3.1%増。鉱山生産は同8.6%増。地金生産は8.3%増であり、最大生産国の中国が22.6%と顕著な伸び。
- ② 2007年1～7月の世界需給バランスは17千tの供給超過であるが、4月以降は供給不足の傾向へ。
- ③ LME在庫は、7月以降60千t台で推移し依然低い水準にある。

### 〈需要〉

2007年1～7月の世界消費は前年同期比で3.1%増の6,543千tであった。2位の米国が12%減、3位日本が1.5%減、4位のドイツが微減、5位韓国10%減となったが、最大消費国の中国が10.7%増となり全体として増加した。

### 〈供給〉

2007年1～7月の鉱山生産は前年同期比で8.6%増の6,525千tであった。5位カナダが2.7%減となったが、最大生産国の中国が18.7%増、2位ペルーが26.7%と大幅増、3位豪州が4.6%増、4位の米国が2.9%増となり全体として増加した。

2007年1～7月の地金生産は前年同期比で8.3%増の6,553千tであった。2位カナダが3%減、4位日本が1.7%減となったが、最大生産国の中国が22.6%と大幅増、3位韓国が3.8%増、5位スペインが2%増となり全体として増加した。

### 〈需給バランス〉

2007年1～7月の需給バランスは4、5月と7月に供給不足であったが、米国備蓄放出を考慮すると17千tとわずかながら供給超過となった。

LME在庫量は減少傾向にあり7月末に66千t、8月末に65千t、9月末に61千tと依然低い水準にある(表3-1、3-2)。

表3-1 亜鉛の需給状況

単位:千t

亜鉛	2006年												2006年	2006年
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	1～7月
鉱山生産量	833	814	874	869	875	902	878	884	885	899	855	869	10,350	6,008
地金生産量	883	843	854	874	910	893	868	876	908	938	932	965	10,673	6,051
米国備蓄放出	8	0	2	3	5	0	4	2	6	1	-3	0	28	1
消費量	914	879	929	915	952	924	917	888	949	990	907	914	11,043	6,344
需給バランス	-23	-36	-73	-39	-37	-30	-45	-10	-35	-51	22	51	-342	-294
亜鉛	2007年								前年 同期比 (%)					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	1～7月計						
鉱山生産量	897	879	904	937	960	1,001	949	6,525	8.6					
地金生産量	954	908	950	918	965	954	908	6,553	8.3					
米国備蓄放出	0	0	0	1	1	4	1	7	—					
消費量	932	878	949	936	981	955	914	6,543	3.1					
需給バランス	23	30	2	-18	-15	3	-6	17	—					

※データは国際鉛亜鉛研究会のものを使用しているが合計等は必ずしも合わない。

出典:国際鉛亜鉛研究会資料

表3-2 LME国別亜鉛在庫の推移

単位:千t

国名	2006年					2007年						
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
米国	128.5	103.8	80.5	64.7	58.1	57.3	56.0	52.3	45.4	42.2	41.9	40.3
イタリア	5.0	2.7	1.5	1.5	1.6	0.8	0.6	0.2	0.4	0.2	0	0.8
マレーシア	14.5	10.6	8.2	4.2	3.5	2.8	0.9	10.7	8.4	5.3	1.7	1.6
UAE	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.9	10.6	6.9	11.9	7.6
シンガポール	18.2	16.4	11.0	10.7	23.6	34.2	32.8	29.0	21.6	10.7	6.2	6.3
オランダ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	7.7	7.8	6.8
英国	5.2	4.5	3.8	3.2	2.8	2.5	2.3	2.0	1.8	1.7	1.5	1.4
その他	1.1	1.1	0.9	0.9	0.9	1.0	0.9	1.0	0.9	0.8	1.4	1.4
合計	172.5	139.1	105.9	85.2	90.5	98.5	93.5	106.1	95.2	75.5	72.4	66.2

出典:国際鉛亜鉛研究会資料



### 3. 今後の需給見通し（国際鉛亜鉛研究会予測）

#### 〈需要〉

世界の亜鉛地金消費は、2007年に前年比3%増の11,380千t、2008年に同5.1%増の11,960千tと見込まれる。中国の消費は2007年に8.8%増、2008年に12.1%増と堅調な伸びで、インドでの消費の伸びがそれに続く。米国では2007年は1.9%減、2008年は前年並みとなる見込みである。欧州では、ベルギーとイタリアでの伸びにより2007年に2.5%増、2008年に1.4%増となる見込みである。

#### 〈供給〉

世界の亜鉛鉱山生産は、2007年に前年比7.4%増の11,180千t、2008年に同9.5%増の12,240千tと見込まれる。ボリビアでは生産開始したサン・クリストバル鉱山により増加し、豪州、カナダでも2007、2008年に多くの鉱山が生産許可され顕著な伸びが見込まれる。ペルーでもアンタミナ鉱山の増産、セロ・リンド鉱山の生産開始により増加する見込み。この他、中国、ブラジル、インド、アイルランド、カザフスタン、メキシコ、ポルトガル、米国等を含む多数の国で増加が見込まれる。

世界の亜鉛地金生産は2007年に前年比5.9%増の11,320千t、2008年に同7.8%増の12,200千tと見込まれる。中国、インドで顕著な伸びとなり、特にインドではヒンドスタン・ジンクの設備能力170千t/年のシャンデリア製錬所が2007年末に生産開始し伸びに寄与する。欧州ではベルギー、フィンランド、フランス、ポーランド、ロシア、スペインで増加し、この他豪州、カザフスタン、韓国、タイ、米国でも伸びる見込みである。

#### 〈需給バランス〉

需給バランスは2007年に約47千tの供給不足となるが、2008年には供給超過に転じる見込みである。

# 4. ニッケルの国際市況と需給動向（2007年9月まで）

希少金属備蓄部

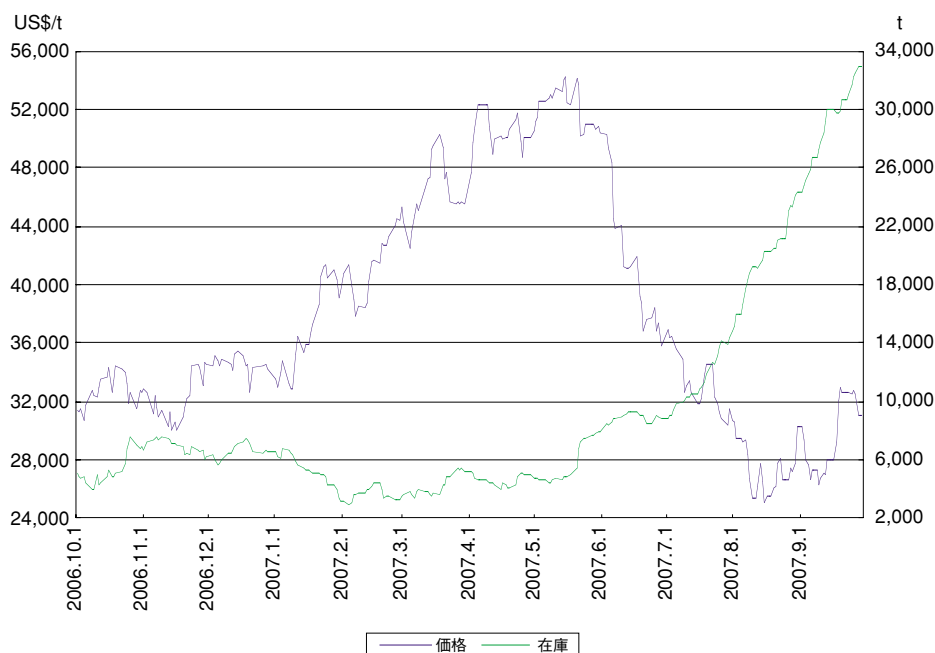
1. ニッケルの国際価格は、8月10日に25,000US\$台まで急落、その後26,000US\$前後で推移し、一時反転したものの、9月に入ってもステンレス減産体制の継続や在庫増加などから27,000US\$前後で推移。9月中旬32,000US\$台へと上伸し、9月末日現在31,050US\$。
2. 2007年1～7月の需給バランスは、39.6千tの供給過剰。LME在庫量は、引き続き増加傾向となっており、9月末日時点で32,934t。
3. 国際ニッケル研究会によると、2007年の世界のニッケル需給は、約6.4万tの供給過剰と予測。欧州、アジアにおけるステンレス減産体制は継続しており、需要の伸びは鈍化しているが、ステンレスの調整が終了すれば、需要回復との見方もある。

## 1. 国際価格（2007年8～9月）

ニッケルの国際価格は、8月10日に25,000US\$台まで急落、8月下旬まで26,000US\$前後で推移し、8月末に一時30,000US\$台をつけたものの、9月にはステンレス減産体制の継続や在庫増加などから、再び27,000US\$前後で推移。9月中旬、中国需要の回復予想などから32,000US\$台と上伸し、9月末日現在31,050US\$。

6月より投機資金の撤退などから下落の一途を辿っていたニッケル国際価格は、高値による需要後退、在庫の増加などから、8月はじめに30,000US\$を割り込み、8月10日には25,000US\$台にまで急落、その後は26,000US\$前後で推移した。8月下旬、底値感から投機筋の買いが進み反転し、8月末に一時30,000US\$台

を付けたものの、9月に入ってから、ステンレス減産体制の継続や在庫が引き続き増加傾向であることなどから、再び27,000US\$前後で推移。しかし、9月中旬、中国需要の回復予想などから32,000US\$台へと上伸し、9月末日現在31,050US\$となっている（図4-1）。



ニッケル	2006年			2007年								
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
LME在庫 (月末) (t)	6,816	6,066	6,594	3,366	3,342	5,232	4,980	7,914	8,856	14,412	24,324	32,934
平均価格 (US\$/t)	32,703	32,114	34,570	36,811	41,184	46,325	50,267	52,179	41,719	33,426	27,652	29,538

図4-1 ニッケル価格と在庫の推移

出典：国際ニッケル研究会

## 2. 需給 (2007年1～7月)

- ① 2007年1～7月の鉱石生産は12.9% (108.7千t) の増。一次地金生産は11.0% (84.7千t) の増。消費は1.5% (12.3千t) の増。
- ② 2007年1～7月の需給バランスは、39.6千tの供給過剰。
- ③ LME在庫は、5月下旬より増加傾向となり、9月末日時点で32,934t。

## 〈需要〉

2007年1～7月のニッケル消費は812.7千t(金属純分、以下同様)で、前年同期比1.5% (12.3千t) の増となった。消費量第1位の中国は34.6% (47.0千t) の大幅増であったが、第2位日本は5.6% (5.9千t) の減、第3位米国は0.6% (0.5千t) の減、第4位ドイツは3.4% (2.1千t) の減、第5位台湾は3.5% (1.8千t) の減となった。

## 〈供給〉

2007年1～7月のニッケル鉱石生産は949.5千tで、前年同期比12.9% (108.7千t) の増となった。最大生産国のロシアは3.8% (6.2千t) の増、第2位カナダは9.0% (12.3千t) の増、第3位インドネシアは42.2% (34.6千t) の大幅増、第4位豪州は5.1% (5.2千t) の

増、第5位のニューカレドニアは13.8% (8.3千t) の増であった。2007年1～7月の一次ニッケル地金生産は852.3千tで、前年同期比11.0% (84.7千t) の増となった。最大生産国ロシアは0.2% (0.4千t) の微増、第2位中国は89.6% (58.4千t) の大幅増、第3位日本は6.6% (6.1千t) の増、第4位カナダは14.9% (12.7千t) の増、第5位豪州は4.1% (2.6千t) の増であった。

## 〈需給バランス〉

2007年1～7月の需給バランスは、39.6千tの供給過剰となっている。

ニッケルの金属取引所在庫は、2007年5月下旬より増加傾向となり、8月中旬には20,000t台にまで増加、9月下旬には約1年半ぶりに30,000t台となり、末日時点で32,934t (表4-1、4-2)。

表4-1 ニッケルの需給状況

単位:千t、金属純分

ニッケル	2006年												1～12月計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
鉱山生産量	117.9	115.0	120.8	126.7	122.8	120.3	117.3	123.4	120.8	130.2	129.0	129.8	1,473.9
一次地金生産量	114.4	107.9	111.2	111.8	112.8	107.5	102.1	109.7	114.5	118.7	118.0	121.3	1,349.8
消費量	111.4	108.8	113.3	115.8	116.9	117.1	117.2	119.2	117.0	121.0	119.4	118.7	1,395.8
需給バランス	3.0	-0.9	-2.1	-4.0	-4.1	-9.6	-15.1	-9.5	-2.5	-2.3	-1.4	2.6	-46.0
ニッケル	2007年								前年同期比 (%)				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	1～7月計					
鉱山生産量	130.8	128.6	143.0	135.9	140.5	134.2	136.6	949.5	12.9				
一次地金生産量	123.6	113.1	123.8	122.4	124.4	121.3	123.8	852.3	11.0				
消費量	122.4	117.4	122.5	115.1	112.4	113.6	109.3	812.7	1.5				
需給バランス	1.2	-4.3	1.3	7.3	12.0	7.7	14.5	39.6	—				

出典:国際ニッケル研究会

表4-2 LME国別ニッケル在庫の推移 (2006年9月～2007年8月)

単位:t

国名	2006年				2007年							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
ベルギー	60	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ドイツ	150	150	132	114	18	18	—	—	—	—	—	—
イタリア	30	—	—	—	—	36	72	60	108	66	48	0
韓国	1,260	2,706	2,640	2,364	2,070	1,776	2,004	1,890	2,928	3,414	3,432	3,366
オランダ	3,144	3,030	2,268	2,826	204	216	1,986	1,884	3,474	4,080	8,100	13,500
シンガポール	150	246	270	324	546	750	804	726	468	576	528	1,272
スウェーデン	18	42	150	294	90	—	—	330	408	120	1,704	3,276
英国	12	12	12	12	—	—	—	—	24	—	0	2,100
米国	300	570	594	660	438	546	366	90	504	600	600	810
合計	5,124	6,816	6,066	6,594	3,366	3,342	5,232	3,342	7,914	8,856	14,412	24,324

出典:国際ニッケル研究会

### 3. 今後の需給見通し

国際ニッケル研究会によると、2007年の一次ニッケル地金生産は8.9%増の147.8万t、ニッケル消費は1.5%増の141.4万tとしており、需給バランスは約6.4万tの供給過剰と予測している。また、中国におけるニッケル銑鉄の生産増加が加速するとの見通しを発表している。

業界紙、メディア等によると、供給については、中国、ロシアの供給力増強などにより増産傾向であるが、西側諸国での生産は、設備の故障、事故などにより伸び悩んでいるものと見られる。一方、需要については、欧州、アジアにおけるステンレス減産体制は継続しており、需要の伸びは鈍化しているものの、ステンレスの調整が終了すれば、先安感から買い控えていた需要家の引き合いにより、需要が回復するとの見方もある。なお、需要増加の一翼を担うとされている中国のニッケル銑鉄について、8月中旬、中国政府は環境問題から生産規制に乗り出したが、これによる減産への影響は限定的であるとの見方が強い。

ニッケル価格については、乱降下を繰り返す状況となっているが、当面は30,000US\$前後で推移するとの見方が強い。また、在庫の増加傾向は続いているものの、底堅いステンレス需要を背景に、投機資金が再び流入する可能性も指摘されている。